

1. 件名：福島第一原子力発電所におけるスラッジ等の放射性物質に係る面談
2. 日時：令和3年3月4日（木）15時00分～16時10分
3. 場所：原子力規制庁18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

高松専門職

澁谷企画調査官、大辻室長補佐、横山係長（TV会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社（TV会議システムによる出席）

福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所 担当6名

（TV会議システムによる出席）

5. 要旨

○福島第一原子力発電所におけるスラッジ等の放射性物質の算出方法と根拠について、東京電力ホールディングスより説明を受けた。

- 第87回特定原子力施設監視・評価検討会で報告された滞留水貯留量と滞留水中の放射性物質量は、公開している放射能分析結果に各建屋の貯留量を乗じたもので算出しているが、滞留水貯留量はトレンチの貯留量を除いたものであり、週報の数値とは異なるもので算出していること。
- ゼオライト土嚢や除染装置スラッジは公表している実測した値に保管量を乗じたものであること。
- 建屋のスラッジは、滞留水とスラッジが混合されたものを分析し、単位面積あたりの濃度を算出し、床面積を乗じたものであること。
- ALPS処理済水の分析は、今後も継続して行いデータを拡充していくとしていること。
- HICの分析結果は、サンプル数が少ないため、分析結果から放射性物質量を算出するのは難しいと考えていること。

○原子力規制庁は、上記説明を受けた内容を確認し、以下のコメントを行った。

- リスクを把握するためには、放射性物質量を正確に算出する必要があり、実測した結果などを公開し、算出の方法を示すことは重要である。
- 放射性物質量を評価する時は、どの核種が対象であるかを明記すること。また、放射能減衰を考慮できるように分析日時も追記すること。
- 建屋スラッジの算出方法について詳細に説明をすること。
- 除染装置スラッジの分析データについて、今回示されたデータ以外のもがないかを確認すること。また、除染装置で処理した汚染水の処理量の詳細データを示すこと。
- ALPS処理済水の分析結果は、セシウムとストロンチウム以外の核種についても説明すること。

6. その他

資料：スラッジ等の放射性物質について